

グローバル化のオセアニア

塩田光喜 編

2010年3月

独立行政法人 日本貿易振興機構

アジア経済研究所

まえがき

1989年11月9日の夜、第二次世界大戦後の世界秩序を構成していた米ソ二大スーパーパワーによる、人類学のいわゆる補完的対立(Complementary opposition)による冷戦体制は、ベルリンの壁とともに崩壊し、世界史はグローバリゼーションと呼ばれる新たな段階に突入した。

2008年9月25日のリーマン・ショックとともに終わりを告げたこのグローバリゼーションの20年間は世界のGDPが3倍に、貿易額が5倍に、金融資産が30倍に膨張するという驚異の20年であった。

だが、皮肉なことに、1990年、日本は土地・株バブルが破裂し、「グローバリゼーションの20年」を「失われた20年」として歩むことになる。

グローバリゼーションは世界の国々を容赦なく、勝者と敗者に振り分けていったのだった。

我が太平洋島嶼諸国も、日本同様、敗者の側に振り分けられていった。

経済的停滞は言うに及ばず、内戦、クーデター、民族間武力衝突といった暗色の20年に覆われたのである。

一方で貨幣経済の浸食はかつての共同体の結合の基盤を掘り崩し、人々は寄る辺を失いつつある。

欲望を解放され、喉から手が出るほどカネが欲しい太平洋の民に、カネを持って現れたのは、グローバリゼーションの最大の勝者、大陸中国や東南アジアのチャイニーズ達だった。

チャイニーズ・ビジネスマン達は太平洋の森林の木材や海洋の魚貝や、レアメタルの開発＝搾取(Exploitation)の権利を島嶼諸国の政治家や官僚、地元有力者達の頬を札束で叩きながら手に入れていったのである。

太平洋の島々に、グローバリゼーションはこのような形で入っていった。

太平洋島嶼諸国におけるグローバリゼーションの20年間は、カネの浸食する、カネにまつわる20年でもあった。

太平洋島嶼諸国におけるグローバリゼーションの20年間はまた、海水の浸食する、地球温暖化(グローバル・ウォーミング)の海面上昇と激しい気候変動の20年でもあった。

近年、日本のメディアでも取り上げられたツバル水没化の危機は、太平洋のいたる所でくり広げされているすさまじい異常気候の一つの例にすぎない。

グローバリゼーションはこのように、太平洋の島々にとって災厄の時代であった。

本論集はベルリンの壁崩壊からリーマン・ショックに至るグローバリゼーションの20年の太平洋を様々な島々から、さまざまな角度で照射した集成である。

まだ、研究会発足から1年足らず。中間産出物である。

本書の成果を踏まえて、研究会は太平洋から見たグローバリゼーション論の構築を目指す

して突き進んでゆく。

乞う、ご期待！

最後に、本書は私が千葉大学文化人類学博士課程佐藤敦君の助けを得て、というよりも、窮極のアナログ人間である私は佐藤君に全面的に依存しながら編集したものであることを申し添えておきたい。

佐藤君には心からなる感謝を、そして読者の皆様には編集上の瑕疵には御寛恕を乞う次第である。

2010年3月 塩田光喜

目次

総論 グローバリゼーション - 資本主義の最終段階としての -	塩田 光喜 1
第1節 グローバル化 - 驚異の 20 年.....	1
第2節 IT と金融 - グローバル化の原動力.....	3
第3節 - 証券化 - 金融テクノロジーの錬金術.....	5
第4節 世界分業体制の大変動.....	7
第5節 グローバル化のオセアニア.....	9
第6節 グローバル化のオセアニア - その歴史的位相.....	10
第7節 地球温暖化(グローバル・ウォーミング).....	11
第8節 ジャンボ高潮 - 暴走する海面上昇.....	13
終わりに.....	16
第 1 章 太平洋島嶼国におけるグローバル化の諸相.....	風間 計博 20
はじめに.....	20
第1節 グローバル化と人類学.....	22
第2節 太平洋島嶼部のグローバル化.....	24
1 グローバルな近代化の未達成	
2 政治経済的脆弱性	
3 混淆する近代性と在地の論理	
第3節 キリバス離島村落における村集会所の喪失.....	28
おわりに.....	31
第 2 章 グローバル化の波に消えゆく森	
—ソロモン諸島における森林伐採の展開および転換—.....	石森 大知 36
はじめに.....	36
第1節 ソロモン諸島における森林伐採の概要.....	37
第2節 北ニュージョージアの伐採史.....	39
1 LP 社と植民地政府の蜜月時代	
2 イギリス系から東南アジア系の企業へ	

第3節	グローバル化する森林資源.....	46
	おわりに.....	49
第3章	グローバル化のエージェント —パプアニューギニアにおける反DVのイデオ スケープをめぐって—.....馬場 淳	54
	はじめに.....	54
第1節	パプアニューギニアと DV.....	56
	1 DV 対策の歴史	
	2 禁止命令	
第2節	DV に対する州レベルの取り組み—マヌス州ピヒ・マヌス協会の事例.....	60
	1 ピヒ・マヌス協会の概要	
	2 言説の集積場としてのピヒ・マヌス協会	
	おわりに.....	65
第4章	民族主義から多民族共生へ —フィジー諸島共和国における 2006 年クーデタ の特質—.....丹羽 典生	71
	はじめに.....	71
第1節	フィジーにおける政治的混乱.....	72
	1 クーデタ小史	
	2 民族か階級か——クーデタに関する先行研究	
第2節	2006 年クーデタの背景と展開.....	75
	1 ガラセ内閣と軍部の対立の経緯	
	2 クーデタへ	
第3節	2006 年クーデタの特質.....	77
	1 民族主義的要素	
	2 各種団体の対応	
	3 軍の変質	
	最後に.....	83

第5章 太平洋環境共同体に向けて 日本の大洋州島嶼国外交の経緯と課題 -
.....黒崎 岳大 91

はじめに.....92

第1節 太平洋地域の地域統合.....93

第2節 日本の戦後大洋州外交.....95

第3節 「太平洋・島サミット」の展開.....96

 1 第1回日本・南太平洋フォーラム首脳会談

 2 第2回日本・南太平洋フォーラム首脳会談

 3 第3回日本・南太平洋フォーラム首脳会談

 4 第4回日本・南太平洋フォーラム首脳会談

第4節 第5回太平洋・島サミットの概要と展開.....99

 1 第5回太平洋・島サミットを巡る環境の変化

 2 「太平洋環境共同体」構想をめぐる経緯

 3 第5回島サミットと参加各国の反応

第5節 考察：太平洋環境共同体をめぐる論点.....104

おわりに.....105

第6章 現地化、再移住、新移民 —太平洋島嶼地域における華人社会の変容過程—
.....市川 哲 109

はじめに.....109

第1節 太平洋島嶼地域の植民地化と華人社会.....110

第2節 太平洋島嶼地域の独立と華人社会.....112

第3節 近年の太平洋島嶼地域における華人の活動.....114

おわりに.....119

執筆者一覧
(担当章順)

塩田 光喜	アジア経済研究所新領域センター貧困削減・ 社会開発研究グループ 主任研究員	総論
風間 計博	筑波大学大学院 人文社会科学研究科 准教授	第1章
石森 大知	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 ジュニア・フェロー	第2章
馬場 淳	日本学術振興会 特別研究員 (PD) 東京外国語大学	第3章
丹羽 典生	国立民族学博物館 助教	第4章
黒崎 岳大	太平洋諸島地域研究所 主任研究員	第5章
市川 哲	立教大学 アジア地域研究所 研究員	第6章